



風景を映す倉庫

～地域のランドマークとなるスマートステーションの提案～

世羅町：豊かな風景と営み

世羅町は丘陵地が広がり、四季の変化や農業の営みとともに暮らしが営まれてきた地域である。冬季には積雪もあり、除雪や道路維持は地域生活を支える重要な課題となっている。こうした環境において、倉庫施設は単に機能を満たすだけでなく、移り変わる周辺の風景に呼应し、「多様な表情」を見せる存在であることが求められる。本計画では、作業車の効率的な出動を支える機能を備えると同時に、丘陵地を行き交う人々に異なる表情を見せる外観をデザインした。日常の風景に溶け込みながらも、道行く人々の記憶に残るランドマークとなることを目指した。



機能と共存するランドマーク性

■斜め棟の見え

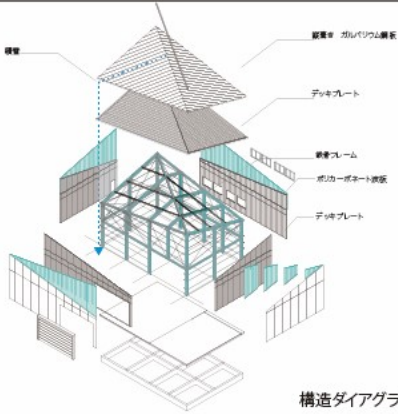
長方形のシンプルな倉庫に対して棟を対角線上に架けることで、軒高が変化するような外形になっている。これにより、異なる方向からの視点に応じて外形のシルエットが変化し、それぞれの道行く人に建物の存在を示すランドマークとしての役割を果たす。同じ建築だが、見る方向の変化に応じて建築もまた周辺に見せる「顔」を変えていく。その違和感も道行く人々の記憶として存在し続ける。

■斜め棟の機能

斜めに交わる棟の立て付けは、屋根に積もった雪を自然にシャッター正面から遠ざける。これにより、

・除雪車の出入り口前に雪が堆積せず、除雪作業を省略でき、出動の初動時間を短縮する。

・利用者の安全が確保されると同時に、緊急出動時のシャッター開閉が妨げられない。



■建設コストの削減

本提案では、倉庫建築において一般的かつ調達性の高い日形鋼やガルバリウム鋼板などの標準的な鉄骨部材を採用し、材料コストを抑制します。これにより、過剰な仕様によるコスト増を避けつつ、施工性と供給安定性を確保します。

■耐久性とライフサイクルの考慮

凍結防止剤で想定される塩害リスクに対応するため、屋根・壁デッキには高耐食性めっき鋼板を用い、さらにフレームに防錆塗装を組み合わせることで、維持管理コストを低減しながら建物の耐用年数を延ばす。このように、基礎構造や骨組みには標準品を用いてコストを抑え、仕上げ材や防錆対策に重点的に予算を配分することで、倉庫としての耐久性・経済性・実用性のバランスを実現する。

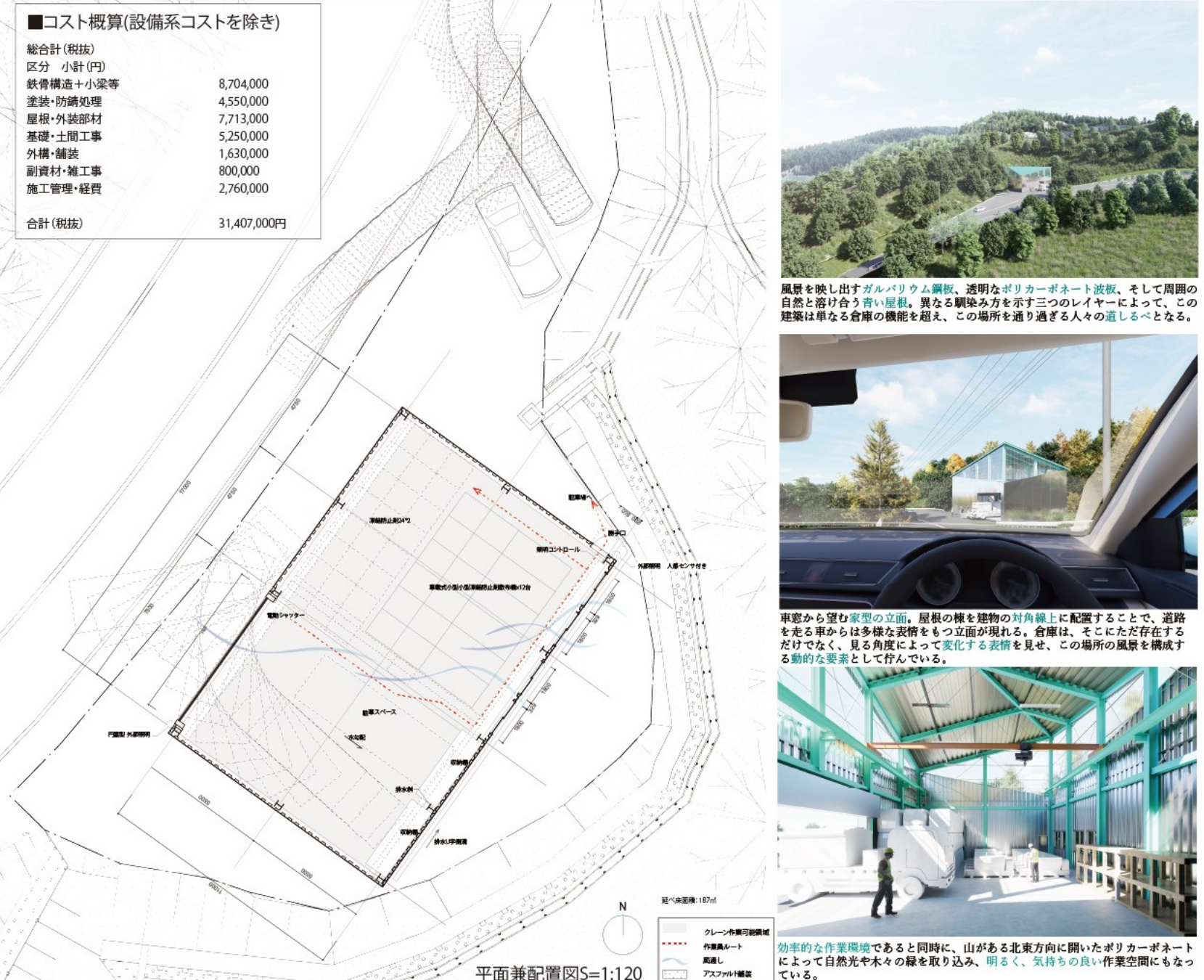
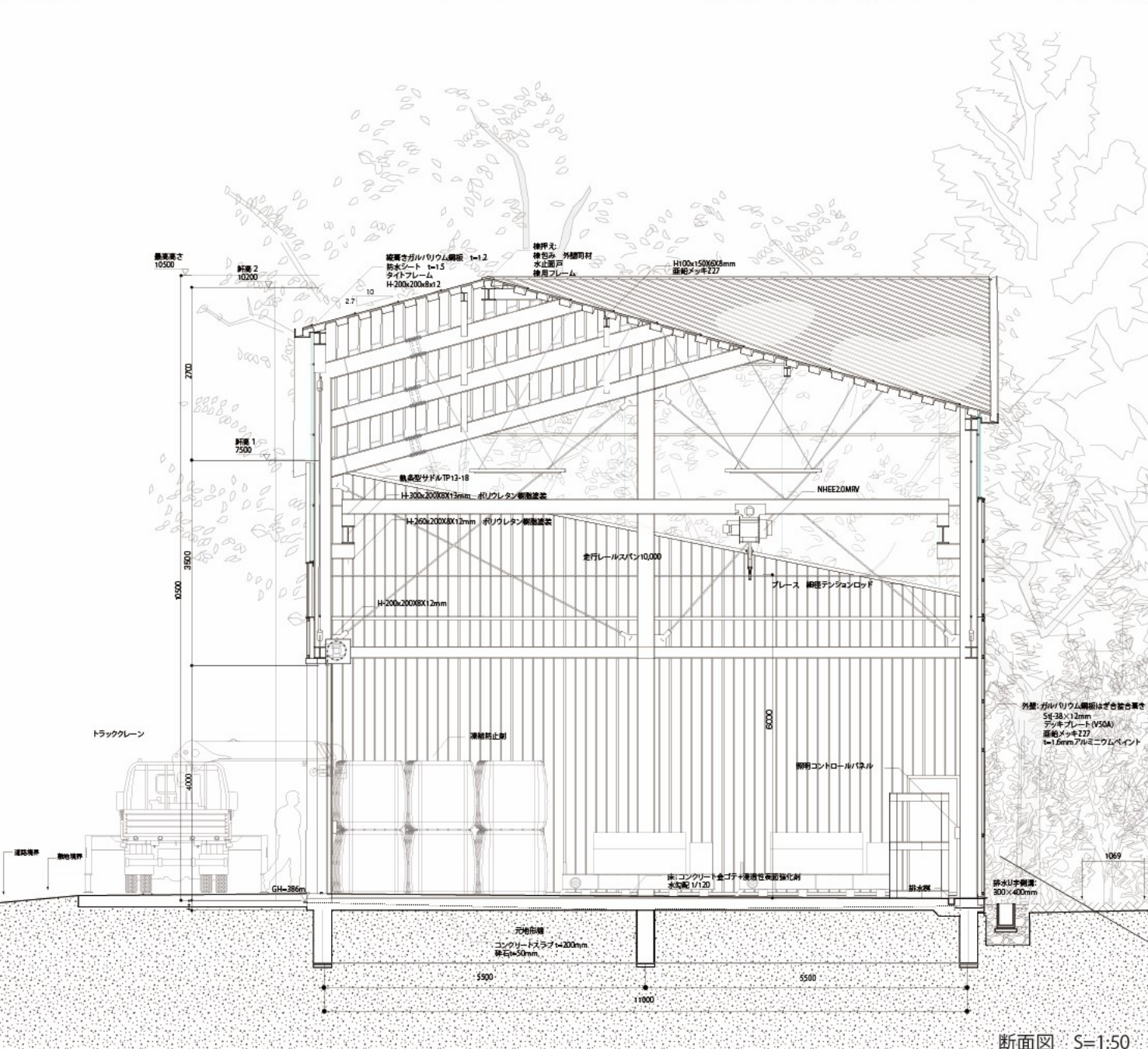
構造ダイアグラム

風景を受け止める立面

建物南東の、道路から最も離れた面には換気用の窓を設け、作業員が開けた際に自然の風景だけが切り取られるように配置した。勝手口は駐車場に面する北東側に、電動シャッターは道路正面の壁に設け、散布車やクレーンが作業しやすい機能的な動線としている。屋根の棟を建物の対角線上に配置したことで、各立面から屋根が見え、あらゆる方向から特徴的な青い屋根を望むことができる。高さ4,950mm→7,500mmに斜めに上っていくガルバリウム鋼板の壁はアイレベルで風景を映し出し、ポリカーボネート波板越しに青い構造体が見え、青い屋根は自然と溶け合う。



■コスト概算(設備系コストを除き)		
総合計(税抜)	区分	小計(円)
	鉄骨構造+小梁等	8,704,000
	塗装・防錆処理	4,550,000
	屋根・外装部材	7,713,000
	基礎・土間工事	5,250,000
	外構・舗装	1,630,000
	副資材・雑工事	800,000
	施工管理・経費	2,760,000
	合計(税抜)	31,407,000円



風景を映し出すガルバリウム鋼板、透明なポリカーボネート波板、そして周囲の自然と溶け合う青い屋根。異なる馴染み方をする三つのレイヤーによって、この建築は単なる倉庫の機能を越え、この場所を通り過ぎる人々の道しるべとなる。



車窓から望む家型の立面。屋根の棟を建物の対角線上に配置することで、道路を走る車からは多様な表情をもつ立面が現れる。倉庫は、そこにただ存在するだけでなく、見る角度によって変化する表情を見せ、この場所の風景を構成する動的な要素として佇んでいる。



効率的な作業環境であると同時に、山がある北東方向に開いたポリカーボネートによって自然光や木々の緑を取り込み、明るく、気持ちの良い作業空間にもなっている。